

# CA Performance Center

## インストール ガイド

2.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Single Sign-On
- CA Infrastructure Management
- CA Network Flow Analysis

## CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章: インストールの前提条件</b>	<b>7</b>
インストールに関する注意事項	7
インストールの順序	8
CA Performance Center 通信ポート	9
Linux ユーザ アカウント要件	11
大規模な展開でのスレッド割り当ての増加	12
時刻同期の確認	13
各サービスの最大メモリ使用率の変更	14
UTF-8 サポートの設定	15
サードパーティ ソフトウェア	16
<b>第 2 章: インストール ファイルおよびログ記録</b>	<b>17</b>
Linux デーモン	17
ログ ファイル	18
<b>第 3 章: Linux インストール</b>	<b>21</b>
CA Performance Center 上のオープン ファイル数の上限を設定	21
Data Collector 上のオープン ファイル数の上限を設定	22
インストール ウィザードによる Linux への CA Performance Center インストール	23
CA Performance Center のインストール	26
サイレント モードでの Linux への CA Performance Center インストール	28
<b>第 4 章: 言語サポートのインストール</b>	<b>31</b>
英語以外の言語サポートのインストール	31
<b>第 5 章: 製品のアンインストール</b>	<b>33</b>
インストール ウィザードによる Linux からのアンインストール	33
コマンドラインによる Linux からのアンインストール	34
インストール失敗後のクリーンアップ	35
新しいインストールディレクトリでのアップグレードの準備	36

---

<b>第 6 章: アップグレード手順</b>	<b>37</b>
CA Performance Center のアップグレード方法 .....	37
CA Performance Center のアップグレード .....	37
カスタム メモリ設定の再適用 .....	38
<b>第 7 章: データベース バックアップ手順</b>	<b>39</b>
バックアップ アーカイブの作成 .....	39
Single Sign-On 設定ファイルのバックアップ .....	40
再インストール後のデータベースのリストア .....	41
アップグレード失敗からの復旧 .....	43
データベースの再同期 .....	46
<b>付録 A: Linux SystemEDGE エージェントによるシステム ヘルス監視</b>	<b>47</b>

# 第 1 章: インストールの前提条件

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールに関する注意事項](#) (P. 7)

[インストールの順序](#) (P. 8)

[CA Performance Center 通信ポート](#) (P. 9)

[Linux ユーザ アカウント要件](#) (P. 11)

[大規模な展開でのスレッド割り当ての増加](#) (P. 12)

[時刻同期の確認](#) (P. 13)

[各サービスの最大メモリ使用率の変更](#) (P. 14)

[UTF-8 サポートの設定](#) (P. 15)

[サードパーティソフトウェア](#) (P. 16)

## インストールに関する注意事項

CA Protection Suite をインストールする前に、以下の点を考慮します。

- サーバの前提条件は、リリース ノートに詳述されています。
- イベント マネージャを展開するには CA Performance Center がインストールされている必要があります。

イベント マネージャは、CA Performance Center インストールの一部として自動的にインストールされ設定されます。

- Linux にインストールする場合、管理者レベルのアクセス権が必要です。サーバへの root アクセス権がない場合、使用しているユーザアカウントで `sudo` を有効にする必要があります。詳細については、「[Linux ユーザアカウント要件](#) (P. 11)」を参照してください。
- CA Performance Center をインストールするコンピュータで、SELinux (Security Enhanced Linux) が無効であることを確認します。デフォルトでは、一部の Linux ディストリビューションでこの機能が有効になっています。その場合、製品が正しく動作しません。SELinux を無効にするか、または SELinux 制限から [CA Performance Center デーモン](#) (P. 17) を除外するポリシーを作成します。

注: SELinux セキュリティ ポリシーの設定については、Red Hat のドキュメントを参照してください。

- インストールパッケージには、アンチウイルス ソフトウェアは含まれません。お好みのアンチウイルス ソフトウェアをインストールしてネットワーク環境を保護することを推奨します。

**重要:** データベースが破損しないように、インストールディレクトリおよびそのすべてのサブディレクトリをアンチウイルス スキャンの対象から除外します。ローカルのアンチウイルス クライアントのインスタンス、およびリモートのアンチウイルス インスタンスからスキャンされないようにします。

- デフォルトでは、Linux でのインストールディレクトリは `/opt/CA/PerformanceCenter` です。セットアッププログラムでは、別の場所を選択できます。
- ファイアウォールで保護された環境で CA Performance Center が正しく動作するためには、開いている必要がある通信ポートがあることに注意します。CA Performance Center および登録予定のあらゆるデータソースに必要なポートを開くように、ファイアウォールを設定します。各データソースの「インストールガイド」で、必要なポートのリストを調べます。
- CA Performance Center では DNS 解決が必要です。DNS が設定されていない場合は、サーバの `/etc/hosts` ファイルに手動でシステム エントリを追加します。
- NTP を使用した時刻同期も必要です。NTP が実行中でない場合は、Linux 上で NTP デーモンを開始します。詳細については、「[時刻同期の確認](#) (P. 13)」を参照してください。

## インストールの順序

CA Performance Center のインストールでは、常にデータソースを考慮する必要があります。ほとんどのデータソースではインストールの順序は無関係です。ただし、CA Infrastructure Management 用の CA Performance Center をインストールする場合は、リンクされているコンポーネント (Data Repository、Data Aggregator、CA Performance Center、および Data Collector) のインストールが必要です。CA Infrastructure Management をインストールまたはアップグレードするには、以下のインストール順序が推奨されます。特に断りのない限り、すべての手順が必要です。

1. CA Performance Center をインストールします。詳細については、「[Linux インストール](#) (P. 21)」を参照してください。
2. Data Repository をインストールします。

3. Data Repository のログ ローテーションを設定します。
4. (オプション) Data Repository の自動起動をセットアップします。
5. (強く推奨) Data Repository の自動バックアップを設定します。
6. Data Aggregator をインストールします。
7. CA Performance Center にデータ ソースとして Data Aggregator を登録します。  
**注:** データ ソースとしての Data Aggregator の追加の詳細については、「CA Performance Center 管理者ガイド」を参照してください。
8. Data Aggregator プロセスの自動復旧を設定します。
9. (クラスタ インストールのみ) クラスタ環境の Data Repository ホストを Data Aggregator が認識できるようにします。
10. Data Collector をインストールします。

**注:** Data Aggregator、Data Collector、および Data Repository コンポーネントをインストールするには、「CA Infrastructure Management Data Aggregator インストールガイド」の手順に従ってください。

## CA Performance Center 通信ポート

CA Performance Center は、複数のポートを使用して各種コンポーネント、特にデータ ソースと通信を行っています。さらに、CA Performance Center と統合される製品およびコンポーネントには、特定のポート要件があるものがあります。

**重要:** このサーバを保護するファイアウォールすべてについて、展開しているデータ ソースに必要なポートおよびプロトコルを開きます。各データ ソースの製品ドキュメントには、必要なポートおよびプロトコルのリストが掲載されています。

データソースはそれぞれ一意のポートを使用します。ただし、CA Performance Center と各種製品またはコンポーネント間の通信が可能になるためには、以下の通信ポートが開いている必要があります。

**TCP/HTTP 80**

設定データを取得するために CA Network Flow Analysis との同期を有効にします。

**TCP 3306**

コンソール上で MySQL データベース（着信）からの通信を有効にします。

**TCP/HTTP 8181**

クライアントコンピュータと CA Performance Center サーバの間の通信を有効にします。データソースとのコンソール通信を有効にします。

**TCP/HTTP 8281**

イベントマネージャとデータソースとの通信を有効にします。イベントマネージャは CA Performance Center ソフトウェアで自動的にインストールされます。

**TCP/HTTP 8381**

クライアントコンピュータと CA Performance Center サーバの間の通信を有効にします。Single Sign-On 認証コンポーネントを使用するログインも有効にします。

**TCP 8481**

デバイスマネージャとコンソールサービス間の通信を有効にします。

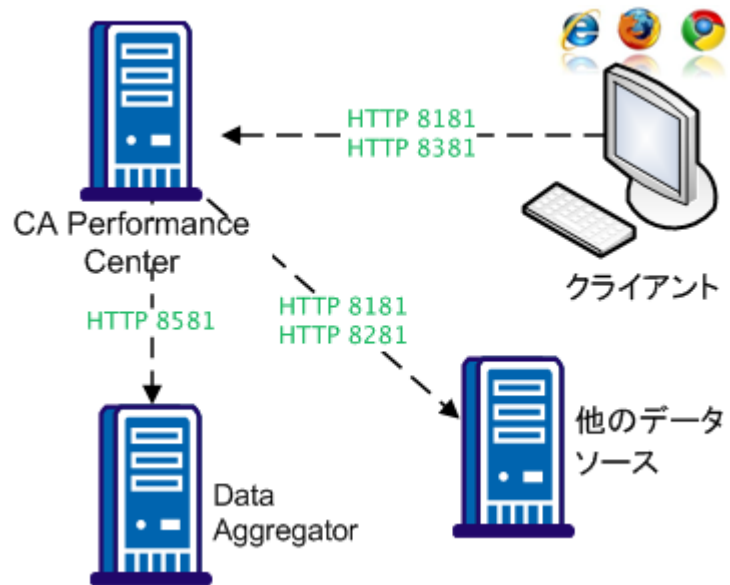
**TCP/HTTP 8681**

デバイスデータを取得するために CA Network Flow Analysis との同期を有効にします。

**TCP/HTTP 8581**

CA Infrastructure Management との同期を有効にします。

以下の図では、基本的なポート使用率を示します。



ポート要件については、インストールするデータソースの「管理者ガイド」または「インストールガイド」を必ず確認します。

## Linux ユーザ アカウント要件

本ソフトウェアのインストールには、管理者権限が必要です。root でログインしたユーザは通常、ソフトウェアを Linux サーバにインストールします。ただし、環境によっては、root ユーザのアクセスが制限される場合があります。

ルートとしてログインできない場合、「sudo」が有効なユーザアカウントを使用して、ソフトウェアをインストールおよび実行できます。このユーザアカウントには sudo の使用を許可して、root ユーザとして必要な制限されたコマンドセットを実行できるようにする必要があります。

Linux サーバ上に複数の sudo ユーザアカウントを設定できます。これらの「スーパーユーザ」アカウントは CA Performance Center デーモンを開始および停止するために必要です。

以下のコマンドエイリアスは、`sudo` ユーザの実行可能が必須であるコマンドを詳述しています。このコマンドエイリアスを実行してユーザの `/etc/sudoers` ファイルを設定します。

```
Cmnd_Alias CA_PERFCENTER = /tmp/CAPerfCenterSetup.bin,  
/etc/init.d/caperfcenter_console, /etc/init.d/caperfcenter_devicemanager,  
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager, /etc/init.d/caperfcenter_sso,  
/etc/init.d/mysql,  
/opt/CA/PerformanceCenter/Tools/bin/npcshell.sh,  
/opt/CA/PerformanceCenter/SsoConfig,  
/opt/CA/PerformanceCenter/Uninstall_MySql,  
/opt/CA/PerformanceCenter/Uninstall_PerformanceCenter,  
/opt/CA/PerformanceCenter/Uninstall_SSO  
sudouser ALL = CA_PERFCENTER
```

`sudo` ユーザ用にこのエイリアスへの参照を `/etc/sudoers` ファイルに追加できます。その後、以下のコマンドを使用してインストールする必要があります。

```
sudo location of CAPerfCenterSetup.bin
```

## 大規模な展開でのスレッド割り当ての増加

「リリースノート」の「システム要件」では、大規模な展開において複数の CPU を持つサーバを設定する方法について説明しています。`thread_concurrency` パラメータは、サーバ上の CPU 数に見合うように変更することをお勧めします。

次の手順に従ってください:

1. CA Performance Center をインストールしたサーバにログインします。
2. 以下のファイルを編集します。  
`/etc/my.cnf`
3. 'thread\_concurrency' パラメータを検索します。
4. サーバ上の CPU 総数の 2 倍になるようにスレッド数を変更します。

5. ファイルを保存します。
6. 以下のコマンドを入力して、mysql デーモンを停止および再起動します。

```
service mysql stop
service mysql start
```

## 時刻同期の確認

CA Performance Center では、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) デーモンを使用した時刻同期が必要です。また、すべてのデータ ソース コンソールで時刻同期が推奨されます。Linux サーバ上の NTP デーモンは、タイミングが必要な操作のために各ホスト上のクロックを同期します。CA Performance Center ホストサーバで NTP デーモンが実行されていることを確認します。

次の手順に従ってください:

1. コンソールを開き、以下のコマンドを入力します。

```
$ chkconfig --list ntpd
```

NTP デーモンがインストールされている場合、出力は以下の例のようになります。

```
ntpd 0:off 1:off 2:on 3:on 4:off 5:on 6:off
```

この出力は、デーモンが実行されているランレベルを示しています。

2. システムの現在のランレベル (通常、3 または 5) で、NTP デーモンが「on」に設定されていることを確認します。現在のランレベルが不明な場合は、以下のコマンドを入力して確認します。

```
$ runlevel
N 3
```

現在のランレベルで NTP デーモンが有効になっていない場合は、以下のコマンドを入力して有効化します。

```
$ chkconfig ntpd on
```

3. 以下のコマンドを入力して、NTP デーモンを手動で起動します。

```
$ /etc/init.d/ntpd start
```

デーモンが起動します。

## 各サービスの最大メモリ使用率の変更

CA Performance Center デーモンが効率的に実行できるように最大メモリ使用量を変更します。システム要件については、「リリースノート」を参照してください。

メモリ割り当ての設定は、インストール作業の途中だけでなく、インストール作業の完了後も行うことができます。

次の手順に従ってください:

1. CA Performance Center をインストールしたサーバにログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
more /proc/meminfo
```

各プロセスのメモリ合計使用量が表示されます。

3. このメモリ合計をメモします。
4. デーモンの最大メモリは以下の手順で変更します。
  - a. 以下のファイルを編集します。

```
/Installation Directory/PerformanceCenter/Service  
Subdirectory/conf/wrapper.conf
```

注: サービス サブディレクトリは以下のいずれかです。

- PC (コンソール デーモン)
- DM (デバイス マネージャ デーモン)
- EM (イベント マネージャ デーモン)

- b. パラメータ 'wrapper.java.maxmemory' を検索します。
- c. 現在の値を変更します。たとえば、小規模な展開では「3072」(単位: MB) に設定します。
- d. ファイルを保存します。
- e. 以下のコマンドを入力して、各デーモンを停止し、再起動します。

```
service service name stop
```

```
service service name start
```

注: サービス名は以下のいずれかです。

- caperfcenter\_console
- caperfcenter\_devicemanager
- caperfcenter\_eventmanager

メモリの最大使用量はスケーラビリティ要件に基づく展開規模に合わせて設定します。

## UTF-8 サポートの設定

UTF-8 エンコーディングをサポートするために、コンポーネントをインストールするコンピュータを設定します。UTF-8 エンコードが有効でない場合、文字がインストール中に正しく表示されない場合があります。

ローカライズされた展開をサポートするには、適切な言語パックも必要です。

注: 選択したコンポーネントのインストールで使用される一部のスクリプトはローカライズされておらず、実行画面は英語で表示されます。詳細については、ローカライズステータス *Readme* ファイルを参照してください。

次の手順に従ってください:

1. 以下の手順のいずれかを実行します。
  - a. Korn または bash シェルから以下のコマンドを入力します。

```
export LANG=LANG_value ; export LC_ALL=$LANG
```

*LANG\_value*

製品のサポートに使用する言語の値を示します。以下の変数がサポートされています。

英語 : en\_US.utf8

フランス語 : fr\_FR.utf8

日本語 : ja\_JP.utf8

中国語 (簡体字) : zh\_CN.utf8

中国語 (繁体字) : zh\_TW.utf8

以下に例を示します。

```
export LANG=zh_TW.utf8 ; export LC_ALL=$LANG
```

- b. Bourne シェルから以下のコマンドを入力します。

```
LANG=LANG_value ; export LANG
```

```
LC_ALL=LANG_value ; export LC_ALL
```

以下に例を示します。

```
LANG=zh_CN ; export LANG
```

```
LC_ALL=zh_CN ; export LC_ALL
```

言語変数が設定されました。

## サードパーティソフトウェア

アンチウイルス、システム管理、および時間同期ソフトウェアを除き、**CA Performance Center** と同じサーバに、サードパーティソフトウェア（特にサードパーティのネットワーク監視用ソフトウェア）をインストールしないでください。サードパーティソフトウェアは**CA** システムのモニタリング機能を妨害する恐れがあり、保証が無効になる場合があります。

**CA** システムにサードパーティソフトウェアをインストールしてある場合、サーバに関する問題をトラブルシューティングする前に、**CA** サポートはこのソフトウェアをアンインストールするよう依頼することがあります。

# 第2章: インストールファイルおよびログ記録

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Linux デーモン](#) (P. 17)

[ログファイル](#) (P. 18)

## Linux デーモン

CA Performance Center には以下の Linux デーモンが必要です。

名前	説明
mysql	データベース プロセス
caperfcenter_devicemanager	デバイス マネージャ プロセス
caperfcenter_console	CA Performance Center コンソール プロセス
caperfcenter_sso	Single Sign-On プロセス
caperfcenter_eventmanager	イベント マネージャ プロセス

これらのサービスはインストール完了直後から実行されている必要があります。以下のコマンドを発行してデーモンのステータスを確認できます。

```
service [サービス名] status
```

**サービス名**

確認するサービスの名前を指定します。

類似のコマンドを使用して、コマンドラインからこれらのサービスを開始、停止できます。

```
service [サービス名] stop
```

```
service [サービス名] start
```

```
service [サービス名] restart
```

これらのサービスを開始、停止するためには、**root** または **sudo** としてログインする必要があります。

## ログ ファイル

インストールエラーおよび設定イベントは、デフォルトでは以下のディレクトリのファイルに記録されます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/InstallLogs
```

インストールしたバージョンを容易に確認できるように、インストール時に **.history** ファイルが生成されます。このファイルには、**InstallLogs** ディレクトリからアクセスします。

デバイス マネージャ デーモンに関連するイベントについては、以下の場所にあるログ ファイルを調べます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/DM/logs
```

**Web** サイトとコンソールに関連するエラーについては、以下の場所にあるログ ファイルを調べます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/PC/logs
```

**MySQL** データベースに関連するエラーについては、（デフォルトで）以下の場所にあるログ ファイルを調べます。

```
/opt/CA/MySQL/data/<ホスト名>.err
```

他のタイプのイベント用に追加のログが保持されています。イベント マネージャに関連するエラーについては、以下の場所にあるログ ファイルを調べます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/EM/logs
```

ユーザ認証 (Single Sign-On 使用) に関連するイベントについては、以下のディレクトリのログ ファイルを参照します。

`/opt/CA/PerformanceCenter/SSO/logs`

また、データ ソース同期のエラー情報を含むログにデータ ソース リスト ページからアクセスできます。



## 第 3 章: Linux インストール

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Performance Center 上のオープンファイル数の上限を設定 \(P. 21\)](#)

[Data Collector 上のオープンファイル数の上限を設定 \(P. 22\)](#)

[インストール ウィザードによる Linux への CA Performance Center インストール \(P. 23\)](#)

[CA Performance Center のインストール \(P. 26\)](#)

[サイレントモードでの Linux への CA Performance Center インストール \(P. 28\)](#)

### CA Performance Center 上のオープンファイル数の上限を設定

CA Performance Center をインストールしているユーザアカウントのオープンファイル数が 65536 以上の値であることを確認します。この値を永続的に設定します。

次の手順に従ってください:

1. root ユーザまたは sudo ユーザとして、CA Performance Center をインストールするコンピュータにログインします。コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力し、ulimit のオープンファイルの上限を少なくとも 65536 に変更します。

```
ulimit -n ulimit_number
```

例 :

```
ulimit -n 65536
```

2. CA Performance Center をインストールするコンピュータ上で `/etc/security/limits.conf` ファイルを開き、以下の行を追加します。

```
# Added by Performance Center
* soft nofile 65536
# Added by Performance Center
* hard nofile 65536
```

注: これらの変更を有効にするには、CA Performance Center を再起動します。アップグレード中である場合、アップグレード処理により自動的に CA Performance Center が再起動されます。

3. CA Performance Center をインストールするコンピュータ上で、オープンファイルの数が適切に設定されていることを確認するには、以下のコマンドを入力します。

```
ulimit -n
```

このコマンドは、以前に指定した `ulimit` 値を返します。

詳細情報:

[CA Performance Center のアップグレード方法 \(P. 37\)](#)

## Data Collector 上のオープンファイル数の上限を設定

Data Collector をインストールするユーザのオープンファイル数が 65536 以上の値であることを確認します。この値を永続的に設定します。

次の手順に従ってください:

1. `root` ユーザまたは `sudo` ユーザとして、Data Collector をインストールするコンピュータにログインします。コマンドプロンプトを開いて次のコマンドを入力し、`ulimit` のオープンファイルの上限を少なくとも 65536 に変更します。

```
ulimit -n ulimit_number
```

以下に例を示します。

```
ulimit -n 65536
```

2. Data Collector をインストールするコンピュータ上で `/etc/security/limits.conf` ファイルを開き、以下の行を追加します。

```
# Added by Data Collector
* soft nofile 65536
# Added by Data Collector
* hard nofile 65536
```

注: これらの変更を有効にするには、**Data Collector** を再起動します。アップグレードである場合、アップグレード処理により自動的に **Data Collector** が再起動されます。

3. Data Collector をインストールするコンピュータ上で、オープン ファイルの数が適切に設定されていることを確認するには、以下のコマンドを入力します。

```
ulimit -n
```

このコマンドは、以前に指定した `ulimit` 値を返します。

詳細:

[CA Performance Center のアップグレード方法 \(P. 37\)](#)

## インストール ウィザードによる Linux への CA Performance Center インストール

CA Performance Center インストール ウィザードを使用して、データベースと Web サイトをインストールおよび設定します。必要に応じて、**X Window** など Linux のグラフィカル ユーザ インターフェースを有効にするためのプログラムをインストールします。

インストール中に前提条件チェックが実行されます。CA Performance Center をインストールする前に、「リリース ノート」のシステム要件を確認します。

注: Java はこのソフトウェア プログラムに含まれています。

次の手順に従ってください:

1. `root` でターゲット コンピュータにログインするか、または `putty` などのリモート プログラムを使用してリモート コンピュータにインストールします。

2. コマンドプロンプトを開きます。
3. 以下のコマンドを入力して、インストールファイルの権限を変更します。

```
chmod u+x CAPerfCenterSetup.bin
```

4. **CAPerfCenterSetup.bin** を実行します。  
セットアッププログラムが開きます。
5. リストから言語を選択します。
6. [ようこそ] ダイアログボックスで [次へ] をクリックします。  
[使用許諾契約] が表示されます。
7. 許諾契約の下部までスクロールして読みます。  
ボタンが有効になります。
8. [使用許諾契約に同意する] を選択して [次へ] をクリックします。  
[インストールディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。  
デフォルトのインストールフォルダは **/opt/CA** です。
9. [次へ] をクリックしてデフォルトのインストール先を受け入れるか、  
[参照] をクリックして別のディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

**CA Performance Center** サービスに対して最大メモリ割り当てを設定するように促すプロンプトが表示されます。

10. コンソール、デバイスマネージャおよびイベントマネージャサービスに対してメモリの割り当てサイズを **MB** 単位で設定し、[次へ] をクリックします。  
[MySQL データディレクトリの場所を選択します] ダイアログボックスが表示されます。
11. [次へ] をクリックして **MySQL** データファイル用のデフォルトの場所を受け入れるか、または [選択] をクリックして別の場所を選択し、[次へ] をクリックします。

**重要:** 選択したドライブに十分な空き領域があることを確認します。  
データベースには **40GB** の領域が必要です。

[MySQL 一時ディレクトリの場所の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

12. [次へ] をクリックしてデフォルトの場所を受け入れるか、または [選択] をクリックして MySQL /tmp ディレクトリ用の別の場所を選択し、[次へ] をクリックします。

注: このディレクトリは一時データベース ファイルに使用されます。デフォルトのパスは /opt/CA/MySQL/tmp です。

13. [次へ] をクリックします。

[インストール設定の確認] ダイアログ ボックスに、インストールに選択した設定が表示されます。

14. 設定を確認し、変更する場合は [戻る] をクリックします。

15. [次へ] をクリックしてインストールを開始します。

注: ソフトウェアをインストールせずに終了するには、[キャンセル] をクリックします。

インストール ダイアログ ボックスにインストールの進捗状況が表示されます。

インストール中に以下の Linux デーモンが作成され開始されます。

`capformancecenter_console`

コンソール デーモンです。8181 番ポートを使用します。

`capformancecenter_devicemanager`

デバイス マネージャ デーモンです。8481 番ポートを使用します。

`capformancecenter_eventmanager`

イベント マネージャ デーモンです。8281 番ポートを使用します。

`capformancecenter_sso`

Single Sign-On デーモンです。ポート 8381 を使用します。

`mysql`

データベース デーモンです。3306 番ポートを使用します。

インストールが完了すると、終了するように促されます。

16. [完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じます。

詳細情報:

[Linux ユーザ アカウント要件 \(P. 11\)](#)

[各サービスの最大メモリ使用率の変更 \(P. 14\)](#)

## CA Performance Center のインストール

CA Performance Center セットアッププログラムを使用して、データベースと Web サイトをインストールして設定します。セットアッププログラムにはグラフィカルユーザ インターフェースが用意されていますが、コマンドラインからインストールすることもできます。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。

sudo アカウントが正しく設定されていない場合、適切な権限でセットアップするように促されます。詳細については、「[Linux ユーザ アカウント要件 \(P. 11\)](#)」を参照してください。

2. インストールパッケージの内容を抽出したディレクトリに移動します。

```
cd /tmp
```

3. ディレクトリの権限を変更します。  
`chmod +x /tmp/CAPerfCenterSetup.bin`

4. 以下のコマンドを実行します。

```
./CAPerfCenterSetup.bin -i console
```

Console モードでインストールが開始されます。

5. 使用する言語を選択して、Enter キーを押します。

「ようこそ」メッセージで、サーバで実行されているプログラムをすべて閉じるように促されます。必要な場合、「Quit」と入力してセットアッププログラムを終了し、実行中のプログラムを終了します。

6. Enter キーを押すとインストールが続行されます。

[使用許諾契約] が表示されます。同意するように促されるまで Enter キーを押します。

7. 使用許諾契約に同意する場合は「Y」を入力します。

「インストールディレクトリの選択」を促すメッセージが表示されます。

デフォルトのインストールディレクトリは `/opt/CA` です。

8. 新規インストールディレクトリへの絶対パスを入力するか、または Enter キーを押してデフォルトパスを承認します。

CA Performance Center サービスに対して最大メモリ割り当てを設定するように促すプロンプトが表示されます。

9. コンソール、デバイスマネージャおよびイベントマネージャサービスに対してメモリの割り当てサイズを MB 単位で設定し、Enter キーを押します。

メモリ割り当ての詳細については、「[各サービスの最大メモリ使用率の変更 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

「MySQL データディレクトリの場所の選択」というメッセージが表示されます。

10. データベースが使用するデータディレクトリの場所を入力するか、または Enter キーを押してデフォルトを受け入れます。デフォルトのパスは `/opt/CA/MySQL/data` です。

**重要:** 選択したドライブに十分な空き領域があることを確認します。データベースには **40GB** の領域が必要です。

11. Enter キーを押して続行します。

「MySQL 一時ディレクトリの場所の選択」というメッセージが表示されます。

12. データベースが使用する tmp ディレクトリの場所を入力するか、または Enter キーを押してデフォルトの場所を受け入れます。デフォルトのパスは `/opt/CA/MySQL/tmp` です。

インストールを開始するように促されます。

13. Enter キーを押して続行します。

「インストール設定の確認」を促すメッセージが表示されます。インストール用に選択した設定が表示されます。必要なディスク空き容量についての助言も表示されます。

14. 選択した設定を確認し、設定を変更する場合は「back」と入力します。  
「back」を複数回入力すると、複数の手順を戻ることができます。

15. Enter キーを押すとインストールが開始されます。

注: ソフトウェアをインストールせずにセットアッププログラムを終了するには、「quit」と入力します。

インストールが実行中であることを示すテキストが表示されます。

16. インストール中に以下の Linux デーモンが作成され開始されます。

`caperformancecenter_console`

コンソール デーモンです。8181 番ポートを使用します。

`caperformancecenter_devicemanager`

デバイス マネージャ デーモンです。8481 番ポートを使用します。

`caperformancecenter_eventmanager`

イベント マネージャ デーモンです。8281 番ポートを使用します。

`caperformancecenter_sso`

Single Sign-On デーモンです。ポート 8381 を使用します。

`mysql`

データベース デーモンです。3306 番ポートを使用します。

インストールが完了すると、プログラムが正常にインストールされたことを告げるメッセージが表示されます。

17. Enter キーを押してインストールプログラムを終了します。

## サイレントモードでの Linux への CA Performance Center インストール

サーバに CA Performance Center をインストールした後、サイレントインストール機能を使用して、複数のコンピュータにデータベースと Web サイトを同時にインストールして設定できます。

注: Java はこのソフトウェア プログラムに含まれており、自動的にインストールされます。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。

sudo アカウントが正しく設定されていない場合、適切な権限でセットアップするように促されます。詳細については、「[Linux ユーザアカウント要件 \(P. 11\)](#)」を参照してください。

2. インストーラ アーカイブ ファイルの内容を抽出します。
3. 抽出したファイルの場所にディレクトリを変更します。
4. テキスト エディタを使用してレスポンス ファイルを作成します。または、アーカイブに含まれていたサンプル ファイルを見つけ、開いて編集します。

このファイルには、セットアッププログラムのインストーラ レスポンス設定が含まれます。

5. 必要に応じ、以下の変数の値を編集します。

#### USER\_INSTALL\_DIR

アプリケーションがインストールされる必要のあるディレクトリを指定します。

デフォルト: /opt/CA

#### MYSQL\_DATA\_FOLDER

MySQL データ ディレクトリ用の場所を指定します。

デフォルト: /opt/CA/MySQL/data

#### MYSQL\_TEMP\_FOLDER

MySQL 一時ファイルを格納するディレクトリの場所を指定します。

デフォルト: /opt/CA/MySQL/tmp

6. ファイルを保存して閉じます。
7. コマンドプロンプトを開きます。
8. CA Performance Center をインストールするすべてのサーバ上で以下のコマンドを実行します。

```
./CAPerfCenterSetup.bin -i silent -r installer.response
```

インストールが開始します。

空のプロンプトは、コンポーネントがインストールされたことを示します。

9. Enter キーを押してセットアッププログラムを終了します。
10. (オプション) インストールディレクトリのルートにあるログファイルを表示してインストールを確認します。

たとえば、インストールエラーおよび設定イベントは、デフォルトでは以下のファイルに記録されます。

```
/opt/CA/PerformanceCenter/InstallLogs
```

# 第 4 章: 言語サポートのインストール

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[英語以外の言語サポートのインストール \(P. 31\)](#)

## 英語以外の言語サポートのインストール

CA Performance Center およびそのデータ ソースは複数の言語をサポートをします。管理者は、個別の製品オペレータごとに優先言語を選択できます。言語パックは、ローカライズされた環境に対してオペレーティング システム サポートを利用しています。

ただし、言語設定が英語以外の製品オペレータは、デフォルトではレポートにダッシュボード データを表示できないことがあります。場合によっては、別の手順で追加のフォントをサーバにインストールする必要があります。

オペレーティング システムにフォントをインストールするための標準的な手順に従います。CA Performance Center レポートおよびエクスポート オプションは、すでに以下のフォントに対応しています。

- Arial
- Arial Unicode MS
- Liberation Sans
- Sans
- Meiryo UI
- AR PL ShanHeiSun Uni
- SimSun
- Sazanami Mincho
- AR PL ZenKai Uni
- Baekmuk Batang

ご使用のオペレーティング システムで別のフォントを使用するには、以下の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. CA Performance Center ソフトウェアをインストールするには、「インストールガイド」の手順に従います。
2. 以下のコマンドを実行して、Linux パッケージマネージャを起動します。

```
piput
```

3. [Browse] タブのリストの左側から [Languages] を選択します。
4. リストの右側からインストールする言語を選択します。
5. [Apply] をクリックします。

## 第 5 章: 製品のアンインストール

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストール ウィザードによる Linux からのアンインストール \(P. 33\)](#)

[コマンドラインによる Linux からのアンインストール \(P. 34\)](#)

[インストール失敗後のクリーンアップ \(P. 35\)](#)

[新しいインストールディレクトリでのアップグレードの準備 \(P. 36\)](#)

### インストール ウィザードによる Linux からのアンインストール

CA Performance Center インストールプログラムを使用して、データベースと Web サイトをアンインストールします。必要に応じて、X Window など Linux のグラフィカルユーザ インターフェースを有効にするためのプログラムをインストールします。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。
2. /PerformanceCenter ディレクトリにディレクトリを移動します。
3. Uninstall\_PerformanceCenter プログラムを起動します。

アンインストールプログラムにより、ウィザードが開始されます。

[アンインストールする製品の選択] ダイアログボックスにより、アンインストールするコンポーネントの確認を求められます。デフォルトでは、コンポーネントはすべてアンインストールされます。

4. 残しておくアイテムの隣のチェック ボックスをオフにします。
5. [次へ] をクリックします。

アンインストーラが CA Performance Center のファイル、フォルダ、レジストリ エントリ、およびショートカットを削除していることを示すメッセージが表示されます。

残すように指定しなかったコンポーネントとアプリケーションはすべてサーバから削除されます。

MySQL のデータ ディレクトリは保持されます。さらに、以下のディレクトリが保持されます。

- CA/PerformanceCenter/InstallLogs : アンインストール ログが含まれています。
- CA/jre : jre を使用する他の CA 製品のために保持されます。

[アンインストール完了] ダイアログ ボックスが表示され、アンインストールが完了したことを示します。

## コマンドラインによる Linux からのアンインストール

Console モードのコマンドプロンプトからアンインストールプログラムを実行して CA Performance Center をアンインストールできます。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。

2. Uninstall\_PerformanceCenter プログラムに移動します。

注: アンインストールプログラムはデフォルトでは /opt/CA/PerformanceCenter に格納されます。

3. 以下のコマンドを実行します。

```
./Uninstall_PerformanceCenter -i console
```

アンインストールプログラムが開始されます。

4. 続行するには Enter キーを押してください。

「削除するコンポーネントの選択」を促すメッセージが表示されます。デフォルトでは、コンポーネントはすべてアンインストールされます。

5. リスト内の残す任意のコンポーネントに対応する値を入力します。複数の値を分離するにはカンマを使用します。

[次へ] をクリックします。

アンインストーラが CA Performance Center のファイル、フォルダ、レジストリ エントリ、およびショートカットを削除していることを示すメッセージが表示されます。

残すように指定しなかったコンポーネントとアプリケーションはすべてサーバから削除されます。

MySQL のデータ ディレクトリは保持されます。さらに、以下のディレクトリが保持されます。

- CA/PerformanceCenter/InstallLogs : アンインストール ログが含まれています。
- CA/jre : jre を使用する他の CA 製品のために保持されます。

[アンインストール完了] ダイアログ ボックスが表示され、アンインストールが完了したことを示します。

## インストール失敗後のクリーンアップ

場合によっては、CA Performance Center インストールの完了が失敗することがあります。たとえば、インストール ファイルに対して /tmp ディレクトリの容量が不足していると、インストールは失敗します。インストールに失敗した場合は、ソフトウェアを再インストールする前に、いくつかの手順に従ってクリーンアップ作業を行ってください。

次の手順に従ってください:

1. 不要なファイルを削除して、/tmp ディレクトリをクリーンアップします。
2. 以下のコマンドを実行して、/opt/CA ディレクトリを削除します。

```
rm -rf /opt/CA
```
3. 以下のコマンドを実行して、インストーラの登録ファイルを削除します。

```
rm /var/.com.zerog.registry.xml
```
4. 以下のコマンドを実行して、すべての CA Performance Center サービス ファイルを削除します。

```
rm /etc/init.d/caperfcenter_*
```
5. サーバを再起動します。
6. ソフトウェアを再インストールします。詳細については、「[Linux インストール \(P. 21\)](#)」を参照してください。

## 新しいインストール ディレクトリでのアップグレードの準備

インストール手順では、インストール用の新しいディレクトリを選択するか、またはデフォルトのディレクトリを使用できます。場合によっては、**CA Performance Center** をアップグレードするときに別のインストールディレクトリをソフトウェアの新バージョンに使用したい場合があります。このシナリオでは、アンインストール中に追加の手順が必要となります。目的は、**CA Performance Center** に関連している初期化ファイルからのリンクがすべて確実に削除されることです。その後、新しいインストールは、デバイス マネージャ、イベント マネージャおよびその他のプロセスの場所を決定する変数の正しいリンクを取得できます。

プロセスを個別にアンインストールして、別のインストールディレクトリを使用するアップグレードに対するインストールディレクトリをクリーンアップすることができます。

次の手順に従ってください:

1. 古いインストール用のインストールディレクトリに移動します。
2. **DM** サブディレクトリに移動し、次にアンインストール サブディレクトリに移動します。
3. デバイス マネージャ プロセスのアンインストーラを実行します。

```
./Uninstall_DM
```

4. デバイス マネージャのアンインストールが完了したら、インストールディレクトリへ戻り、次に **EM** サブディレクトリのアンインストールサブディレクトリへ移動します。

```
cd ../  
cd EM/uninstall
```

5. イベント マネージャ プロセスのアンインストーラを実行します。

```
./Uninstall_EM
```

6. (オプション) デバイス マネージャおよびイベント マネージャ変数に対して **grep** を実行します。

```
ls -al /etc/init.d | grep cap
```

変数 `caperfcenter_devicemanager` および `caperfcenter_eventmanager` は、デバイス マネージャおよびイベント マネージャ プロセスのアンインストールが成功した後に存在してはいけません。

7. [CA Performance Center をアンインストールします](#) (P. 34)。

# 第 6 章: アップグレード手順

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Performance Center のアップグレード方法 \(P. 37\)](#)

[CA Performance Center のアップグレード \(P. 37\)](#)

[カスタム メモリ設定の再適用 \(P. 38\)](#)

## CA Performance Center のアップグレード方法

CA Performance Center の前のリリースからアップグレードする場合は、以下の手順に従います。

1. [CA Performance Center をインストールしているユーザの ulimit 値が 65536 以上であることを確認します \(P. 21\)](#)。
2. [データベースをバックアップします \(P. 39\)](#)。
3. [Single Sign-On 設定ファイルをバックアップします \(P. 40\)](#)。
4. [CA Performance Center をアップグレードします \(P. 37\)](#)。

## CA Performance Center のアップグレード

CA Performance Center インストーラには、製品のアップグレードをサポートするための機能が含まれています。ソフトウェアのアップグレードを実行するには、CA から受け取った新しいバージョン用のインストールファイルを実行します。

.history ファイルを使用して、インストールしたバージョンを特定できます。このファイルには、/opt/CA/PerformanceCenter/InstallLogs ディレクトリからアクセスします。

次の手順に従ってください:

1. CA Performance Center サーバ上の既知の場所にインストール ファイルを保存します。

2. データベースをバックアップします。詳細については、「[バックアップアーカイブの作成 \(P. 39\)](#)」を参照してください。

**重要:** データベースをバックアップしてから、アップグレードプロセスを開始してください。このようにしない場合、設定データが失われる場合があります。

3. この「インストールガイド」の手順に従い、ユーザ インターフェースを使用するかコンソールモードでソフトウェアをインストールします。

インストールでは、インストール タイプの選択を求められます。

4. [アップグレード] を選択します。

アップグレードの操作では、新しいソフトウェアがインストールされます。

**重要:** アップグレードが完了したら、CA Performance Center コンソールにアクセスするコンピュータ上のブラウザ キャッシュをクリアしてください。

詳細:

[CA Performance Center のアップグレード方法 \(P. 37\)](#)

## カスタム メモリ設定の再適用

大規模展開では、デフォルトの最大メモリ使用率設定をカスタマイズすることを推奨します。これらのカスタマイズされた設定は、アップグレード時に自動的に再適用されません。カスタム メモリ設定を利用するには、アップグレード後にそれらを手動で再適用します。

カスタム メモリ設定を再適用するには、「[各サービスの最大メモリ使用率の変更 \(P. 14\)](#)」の手順に従います。

# 第 7 章: データベース バックアップ手順

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[バックアップアーカイブの作成](#) (P. 39)

[Single Sign-On 設定ファイルのバックアップ](#) (P. 40)

[再インストール後のデータベースのリストア](#) (P. 41)

[アップグレード失敗からの復旧](#) (P. 43)

[データベースの再同期](#) (P. 46)

## バックアップ アーカイブの作成

ソフトウェアの再インストールまたはアップグレードの予定がある場合は、必ず現在の CA Performance Center データベースのバックアップ アーカイブを作成します。週単位でバックアップアーカイブを作成することも推奨されるベストプラクティスです。

次の手順に従ってください:

1. `root` でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した `sudo` アカウントを使用します。
2. 以下のコマンドを使用して、すべての CA Performance Center サービスを停止します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_sso stop
/etc/init.d/caperfcenter_console stop
```

3. 以下のように、データベース アーカイブを保存するディレクトリに移動します。

```
cd /$backupDir
```

任意の安全な場所をバックアップディレクトリに使用します。

4. 以下のコマンドを使用して、データベースの MySQL ダンプを作成します。

```
/opt/CA/MySql/bin/mysqldump netqosportal >
$backupDir/netqosportal.sql
```

注: インストール中に、「MySQL データ ディレクトリの場所の選択」というメッセージが表示されます。デフォルトの場所は /opt/CA/MySql/data です。

5. イベント マネージャ データの MySQL ダンプを作成します。

```
/opt/CA/MySql/bin/mysqldump em > $backupDir/em.sql
```

6. 以下のコマンドを使用して、容量を節約するためにこれらのバックアップ ファイルを圧縮します。

```
tar czvf netqosportal.tgz netqosportal.sql
tar czvf em.tgz em.sql
```

7. 以下のコマンドを使用して、圧縮されていない MySQL ダンプ ファイルを削除します。

```
rm netqosportal.sql
rm em.sql
```

8. 以下のコマンドを使用して、すべての CA Performance Center サービスを起動します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager start
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager start
/etc/init.d/caperfcenter_sso start
/etc/init.d/caperfcenter_console start
```

## Single Sign-On 設定ファイルのバックアップ

*Single Sign-On* は、CA Performance Center およびすべてのサポート対象データ ソースで使用される認証スキームです。ユーザは CA Performance Center に認証されると、再びサインインする必要なく、コンソールや登録されているデータ ソース間を移動できます。

Single Sign-On 設定ツールは、管理者が Single Sign-On Web サイトおよび関連する CA データ ソース製品の設定を調整できるようにするコマンドライン アプリケーションです。たとえば、この設定ツールを使用して、CA Performance Center の LDAP 認証およびデータ ソースを設定します。

設定ツールを使用して設定を変更する場合、ユーザの設定は設定ファイルに保存されます。これらのファイルのバックアップ コピーを定期的に作成して、**Single Sign-On** 設定が失われないようにしてください。rsync または別の推奨される方法（スクリプトなど）を使用して、これらのファイルを自動的に、またはアップグレード前にバックアップします。

バックアップ手順には、以下のファイルを追加します。

```
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/sso/start.ini
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/PC/start.ini
```

また、以下のディレクトリをバックアップします。

```
インストール ディレクトリ
/CA/PerformanceCenter/sso/webapps/sso/configuration
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/sso/etc
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/sso/conf
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/PC/etc
インストール ディレクトリ/CA/PerformanceCenter/PC/conf
```

注: デフォルトのインストール ディレクトリは /opt/CA です。

## 再インストール後のデータベースのリストア

ソフトウェアを再インストールした後に、バックアップ アーカイブから CA Performance Center データベースをリストアします。バックアップからデータベースをリストアすると、データの継続性が確保され、エラーが発生した後のほとんどの履歴レポートが有効になります。

エラーが発生しない場合、データベースのリストアは必要ありません。[「インストール失敗後のクリーンアップ \(P. 35\)」](#)に説明されているクリーンアップ手順を実行してから、インストールを再試行してください。次に、この手順を実行します。

アップグレードが失敗した場合は、[「アップグレード失敗からの復旧 \(P. 43\)」](#)の手順に従います。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。

2. 以下のコマンドを使用して、すべての CA Performance Center サービスを停止します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_sso stop
/etc/init.d/caperfcenter_console stop
```

サービスが停止します。
3. バックアップアーカイブを保存したディレクトリに移動します。例：

```
cd $backupDir
```
4. 以下のコマンドの実行により、CA Performance Center およびイベントマネージャ用のデータベースバックアップアーカイブを解凍します。

```
tar zxvf netqosportal.tgz
tar zxvf em.tgz
```
5. 圧縮されていない CA Performance Center ファイルをインポートします。

```
mysql netqosportal -e 'source $backupDir/netqosportal.sql'
```
6. 圧縮されていないイベントマネージャのバックアップファイルをインポートします。

```
mysql em -e 'source $backupDir/em.sql'
```
7. すべての CA Performance Center サービスを起動します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager start
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager start
/etc/init.d/caperfcenter_sso start
/etc/init.d/caperfcenter_console start
```
8. 容量を節約するため、圧縮されていないアーカイブファイルを削除します。

```
rm netqosportal.sql
rm em.sql
```
9. CA Performance Center に管理者としてログインします。
10. 設定データが [管理] ページに表示されることを確認します。

## アップグレード失敗からの復旧

ソフトウェアアップグレードの完了に失敗した後に、バックアップアーカイブから CA Performance Center データベースをリストアします。CA Performance Center ソフトウェアのアップグレード中にエラーが発生した場合、データベースをリストアして、スキーマを更新する必要があります。

注: エラーが発生しない場合、アップグレード後にデータベースのリストアは必要ありません。「[インストール失敗後のクリーンアップ \(P. 35\)](#)」に説明されているクリーンアップ手順を実行してから、アップグレードを再試行してください。次に、この手順を実行します。

次の手順に従ってください:

1. root でサーバにログインするか、またはインストール用に設定した sudo アカウントを使用します。
2. 以下のコマンドを使用して、すべての CA Performance Center サービスを停止します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager stop
/etc/init.d/caperfcenter_sso stop
/etc/init.d/caperfcenter_console stop
```

サービスが停止します。
3. バックアップアーカイブを保存したディレクトリに移動します。例:

```
cd /$backupDir
```
4. 以下のコマンドの実行により、CA Performance Center およびイベントマネージャ用のデータベース バックアップアーカイブを解凍します。

```
tar zxvf netqosportal.tgz
tar zxvf em.tgz
```
5. 圧縮されていない CA Performance Center ファイルをインポートします。

```
mysql netqosportal -e 'source $backupDir/netqosportal.sql'
```
6. 圧縮されていないイベントマネージャのバックアップ ファイルをインポートします。

```
mysql em -e 'source $backupDir/em.sql'
```
7. 以下のインストールディレクトリに移動します。

```
cd /opt/CA/PerformanceCenter/Tools/bin
```

8. 以下のコマンドを実行して、データベースバージョンを確認します。

```
mysql -P3306 -D netqosportal -u root
```

```
mysql> select InstallDate, version, dbschemaversion from  
revision_info order by InstallDate asc;
```

出力には、ソフトウェアおよびデータベーススキーマのインストール日付およびバージョンがリスト表示されます。

データベースバージョンが現在の製品バージョンに一致しない場合は、次に示す一連のアップグレード手順に従ってください。

9. データベーススキーマをアップグレードします。**Tools/bin** ディレクトリから、**npcshell** データベースユーティリティを実行して、スキーマを現在のバージョンにアップグレードします。

```
./npcshell.sh upgradedb
```

10. 以下のコマンドを実行して、データベース変換ファイルをインポートします。

```
/opt/CA/jre/bin/java -jar /opt/CA/PerformanceCenter/SQL/seedlu/bin/seedlu.jar  
-resfile "/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/messages_en_US.properties" -ctrlfile  
"/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/control.sdlctrl" -connection  
"jdbc:mysql://localhost:3306/netqosportal?useUnicode=true&characterEncoding=U  
TF-8" -user netqos -pwd netqos -lang en-US
```

```
/opt/CA/jre/bin/java -jar /opt/CA/PerformanceCenter/SQL/seedlu/bin/seedlu.jar  
-resfile "/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/messages_zh_CN.properties" -ctrlfile  
"/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/control.sdlctrl" -connection  
"jdbc:mysql://localhost:3306/netqosportal?useUnicode=true&characterEncoding=U  
TF-8" -user netqos -pwd netqos -lang zh-CN
```

```
/opt/CA/jre/bin/java -jar /opt/CA/PerformanceCenter/SQL/seedlu/bin/seedlu.jar  
-resfile "/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/messages_zh_TW.properties" -ctrlfile  
"/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/control.sdlctrl" -connection  
"jdbc:mysql://localhost:3306/netqosportal?useUnicode=true&characterEncoding=U  
TF-8" -user netqos -pwd netqos -lang zh-TW
```

```
/opt/CA/jre/bin/java -jar /opt/CA/PerformanceCenter/SQL/seedlu/bin/seedlu.jar  
-resfile "/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/messages_fr_FR.properties" -ctrlfile  
"/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/control.sdlctrl" -connection  
"jdbc:mysql://localhost:3306/netqosportal?useUnicode=true&characterEncoding=U  
TF-8" -user netqos -pwd netqos -lang fr-FR
```

```
/opt/CA/jre/bin/java -jar /opt/CA/PerformanceCenter/SQL/seedlu/bin/seedlu.jar  
-resfile "/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/messages_ja_JP.properties" -ctrlfile  
"/opt/CA/PerformanceCenter/SQL/control.sdlctrl" -connection  
"jdbc:mysql://localhost:3306/netqosportal?useUnicode=true&characterEncoding=U  
TF-8" -user netqos -pwd netqos -lang ja-JP
```

11. 環境管理ページおよびビューを表示するために CA Performance Center で使用される情報を更新します。以下のコマンドを実行します。

**CA Infrastructure Management 管理ページ :**

```
./npcshell.sh dbmigrate -package com.ca.im.plugin.pc  
-path ../../SQL/plugins/pc/
```

**イベント関連ビュー :**

```
./npcshell.sh dbmigrate -package com.ca.im.plugin.em  
-path ../../SQL/plugins/eventmanager/
```

**Data Aggregator 管理ページおよびビュー :**

```
./npcshell.sh dbmigrate -package com.ca.im.plugin.da  
-path ../../SQL/plugins/polaris/
```

12. データベースをアップグレードした後に次のコマンドを再度実行して、データベースバージョンを確認します。

```
mysql -P3306 -D netqosportal -uroot  
  
mysql> select InstallDate, version, dbschemaversion from  
revision_info order by InstallDate asc;
```

13. すべての CA Performance Center サービスを起動します。

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager start  
/etc/init.d/caperfcenter_devicemanager start  
/etc/init.d/caperfcenter_sso start  
/etc/init.d/caperfcenter_console start
```

14. 容量を節約するため、圧縮されていないアーカイブ ファイルを削除します。

```
rm netqosportal.sql  
rm em.sql
```

15. CA Performance Center に管理者としてログインします。

16. 設定データが [管理] ページに表示されることを確認します。

## データベースの再同期

「[推奨されるバックアップおよびリストア手順 \(P. 39\)](#)」には、イベントマネージャ データベースのバックアップ手順が含まれています。

この手順を行わなかった場合、イベントマネージャが CA Performance Center と同期する際に問題が発生する可能性があります。同期が失敗するのは、CA Performance Center に古いイベントマネージャの情報があり、新しくインストールされたイベントマネージャに新しい CA Performance Center の情報がある場合です。

この問題が発生する場合、これらの 2 つのデータベースを再同期する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. 管理者の役割を持つユーザとしてログインします。
2. [データソースの管理] ページに移動します。  
[データソースの管理] ページには、現在の登録済みデータソースのリストが表示されます。
3. 削除（登録解除）するデータソースを選択します。
4. [削除] をクリックしてから、[はい] をクリックして削除を確定します。  
データソースがリストから削除されます。
5. em.general データベース テーブルから、CA Performance Center に関連するすべてのプロパティを削除します。  

```
DELETE from em.general where Attribute LIKE 'NPC.%';
```
6. 以下のコマンドを使用して、イベントマネージャを再起動します。  

```
/etc/init.d/caperfcenter_eventmanager restart
```
7. [データソースの管理] ページに戻ります。
8. イベントマネージャデータソースを登録します。

**重要:** この手順には、イベントマネージャデータベースをリストアするステップが含まれていないため、ユーザの通知は保持されません。少なくとも、通知を再作成する必要があります。その他の点では、イベントマネージャは正常に動作します。

# 付録 A: Linux SystemEDGE エージェントによるシステムヘルス監視

---

CA Infrastructure Management 用の Linux SystemEDGE エージェントを使用して、Data Repository、Data Aggregator、Data Collector、および CA Performance Center をホストするシステムのサーバの健全性を監視できます。

**注:** システムヘルスの監視は任意です。Linux SystemEdge エージェントのダウンロードは必須ではありません。

監視する分散サーバにエージェントをインストールします。その後、CA Performance Center を使用すると、これらのサーバ上のエージェントのディスクバリ、および、各サーバの CPU、メモリ、ファイルシステム、他の重大なリソースなどのエージェントデータの視覚化ができます。

support.ca.com の CA Download Center から、インストールの全手順を記載した Readme を含むエージェントイメージをダウンロードできます。

エージェントイメージを検索するには、以下の手順を実行します。

1. Web ブラウザで、support.ca.com に移動します。
2. 登録済みの電子メールアドレスおよびパスワードでログインします。Support ページにアクセスするには、www.ca.com に登録済みのユーザーである必要があります。

Support ホーム ページが表示されます。

3. 左のメニューバーで、[Download Center] - [Published Solutions] をクリックします。

[Download Center] ページが表示されます。

4. [Select a Product] フィールドで「CA Infrastructure Management 2.0 - MULTI-PLATFORM」を選択します。
5. [Select a Release] フィールドで「2.1」を選択します。
6. [Operating System] フィールドで「Linux」を選択します。
7. [Go] をクリックします。  
[Published Solutions Downloads] ページに SYSTEMEDGE LINUX-X86 x.x.xxxx ソリューションが表示されます。
8. [Download] リンクをクリックして、エージェントイメージをダウンロードします。